令和６年度「ＳＤＧｓの実現に向けた教育推進事業」取組内容

川島町立つばさ北小学校

１　育成する能力

①批判的に考える力　②未来像を予測して計画を立てる力　③多面的、総合的に考える力
④コミュニケーションを行う力　⑤他者と協力する態度　⑥つながりを尊重する態度
⑦進んで参加する態度

２　研究概要

（１）取り組む SDGs の目標

（２）研究主題

世界にはばたく人財が育つＳＤＧｓの実現に向けた教育の在り方

（３）研究仮説

現在、世界中において、これまでに経験したことのない多くの課題に直面している。予測困難な時代を生き抜くためには、一人一人が様々な課題を自分事として捉え、向き合い、解決する力を備えられることが求められる。

そこで、これまでの学校教育の成果を生かしながら、SDGs の視点を入れた取組を実施する。取り組みを通して、７つの能力と態度を育成し、困難な時代を生き抜く力を備えた児童生徒が育成できるのではないかと考える。また、川島町で、価値づけの統一を図ることで、誰一人取り残さない教育を実現することができるのではないかと考える。

３　企業・団体との連携

（１）連携・協働した企業・団体

①埼玉県生態系保護協会
②荒川太郎右衛門地区自然再生協議会
③アサヒグループジャパン株式会社

（２）連携・協働した主な内容

○埼玉県生態系保護協会・荒川太郎右衛門地区自然再生協議会と連携するなかで、荒川の自然再生地を知り、外来植物や自然環境について学んだ。その中で、在来植物の育苗や自然環境の保全活動を通して、郷土の豊かさを守ることの大切さを学んだ。

・草花プロジェクト「現地での環境学習・環境保全活動」〔４年生〕（年２回の体験活動）
・荒川流域小学校等とのオンライン交流会
　「荒川流域での環境学習をしている学校等との交流授業」〔４年生〕
・荒川流域小学校等とのオンライン報告会
　「これまでの環境学習を振り返り、報告し合う学習活動」〔４年生〕

○アサヒグループジャパン株式会社における SDGs 教育と連携し、森のタンブラーについて知り、実際に在来種「カワラナデシコ」の発芽・育苗に使用した。そのなかで、プラスチックゴミの問題等の環境問題を身近に捉え、自分たちのできることを考え、海の環境保全について学んだ。児童は「森のタンブラー」に、一人一人の思いを込めて絵付けをすることで、環境を考えた製品を身近に、自分事として捉える体験をすることができた。そして、この「森のタンブラー」を活用し、次年度の学習や体験活動につなげた。
・「『森のタンブラー』を活用したワークショップ型出前授業」〔３年生〕
・「『森のタンブラー』を活用した発芽・育苗体験」〔４年生〕

４　研究内容

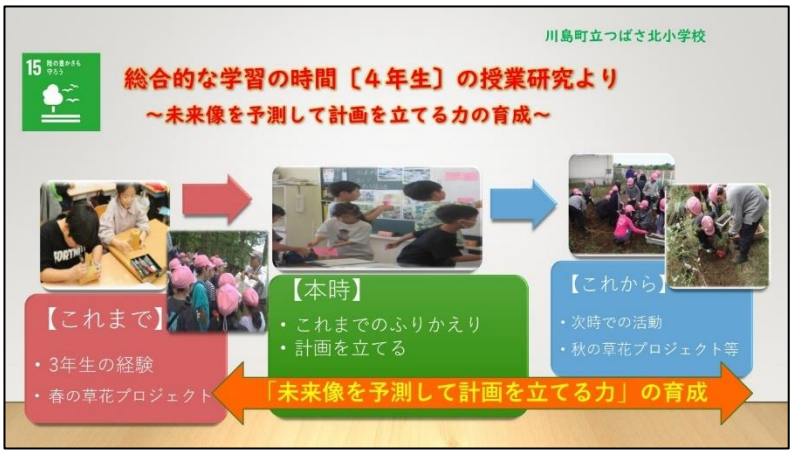
（１）　研究の概要

①川島町教育委員会提示の『ＥＳＤを通して育成する能力・態度』を視点とした授業づくり。
②「未来像を予測して計画を立てる力」の育成を目指した授業研究（第4学年）。
総合的な学習の時間『川島の自然を知ろう！守ろう！【生命尊重】（４０時間配当）』の研究
③昨年度までの研究を踏まえ、これまでの体験活動の見直しと、より児童にとって主体的な学習（課題解決）につながる授業展開の探求と実践。

（２）　研究の流れと取組

①全学年における『ＥＳＤを通して育成する能力・態度』を明確にした授業実践。（６月）
②児童一人一人の『ＥＳＤを通して育成する能力・態度』ふりかえりアンケート。（７月・１月）【低・中・高学年用３種】

③４年生の総合的な学習の時間を軸とした「未来像を予測して計画を立てる力」の育成を目指した授業づくり。（通年）



５　成果と課題

◯　児童生徒の変容　【ESDを通して育成する７つの能力に関わる児童アンケート結果より】

・持続可能な社会の実現の担い手としての資質・能力の育成と向上につながる学習活動を設定することで、「多面的、総合的に考える力」の育成につながった。

「よくあてはまる」と回答児童割合

３年生：29.2%➡60%　４年生：30%➡38.1%　５年生：19%➡21.2%　６年生：28.6%➡38.1%

・SDGsを視点としてこれまで学習してきたこと（生活科や、理科・社会科）や、学習のつながりを実感させることで、持続可能な社会の実現に向けた具体的な方策や行動が考えられるようになり、「未来像を予測して計画を立てる力」「つながりを尊重する態度」の育成につながった。

「未来像を予測して計画を立てる力」

「あてはまる」以上の回答児童割合

１年生：56.3%➡81.8%　２年生：75%➡84.2%　３年生：79.2%➡95%

４年生：75%➡81%　５年生：61.9%➡89.4%　６年生：61.9%➡66.6%

「つながりを尊重する態度」

「あてはまる」以上の回答児童割合

１年生：64.5%➡86.4%　２年生：100%➡94.7%　３年生：83.3%➡95%

４年生：90%➡85.7%　５年生：85.7%➡100%　６年生：81%➡95.3%

・身近な自然を守る活動から、陸地の豊かさを守る価値について迫り、児童の主体性を大切にした体験活動を充実させることで、児童一人一人の「進んで参加する態度」の育成につながった。「よくあてはまる」と回答児童割合４年生：25%➡38.1%

・プラスチックゴミの削減を考えた学習や自然保護活動を通して、児童一人一人が今現在の課題を捉え、今や今までの在り方を捉えなおすことで、「批判的に考える力」の育成につながる授業実践ができた。「よくあてはまる」と回答児童割合４年生：10%➡19%

○　学校全体の変容　【ESDを通して育成する７つの能力に関わる児童アンケート結果の考察より】

・郷土における自然体験学習を通して、身近な自然を大切にしようとする心や態度を養うことで、川島町に対する愛着が増す機会となる授業づくりができた。

・身近な自然の中で児童が主体的に体験することができる環境保全活動を通して、地域の自然やその特徴を学び、児童一人一人の学校や地域に対する愛着や理解が深まることで、地域と自分たちとの「つながりを尊重する態度」の育成ができた。

・地域に根差した学校として、地域や自然環境とのつながりを実感する場面となる体験学習が、地域と児童・保護者、地域と学校とをつなぐために一役を担い、学校と地域との「つながりを尊重する態度」の育成につながった。

○　連携した企業・団体の声

・「児童の気付きや興味関心にはいつも驚かされる。企業としても、今後とも児童に自然環境を守る大切さや意味、努力を伝えていきたいと考えている。」

・「荒川の本来の自然を取り戻す活動を通して、今後とも自然環境保護の大切さやを実感しながら、様々な体験ができるようにしていきたい。」

○　令和７年度に向けての課題

・来年度開校するつばさ小学校において、これまでの両校（つばさ南小学校・つばさ北小学校）の総合的な学習の時間を軸にした学習活動で育成される児童の資質・能力をいかにしてつなげ、次年度以降の継続的な活動と授業づくりをいかに推進していくかが、喫緊の課題となる。

・各教科・領域における授業において、ESDを通して育成する能力や態度の視点を加味することで、教育課程全体を通してSDGs実現に向けた社会の担い手となる児童の育成をいかにして継続発展させていくかを探求していきたい。